

■支部だより■



中国・四国支部だより

—より良い支部活動を目指して—

支部長 近藤 平一郎

中国・四国支部は、瀬戸内海をめぐる中国側の岡山、広島、山口の3県と四国側の愛媛、香川、徳島の3県、それに日本海に面する島根、鳥取の両県、大平洋にむかう高知県の9県よりなっている。

その公害事情は海域の特性、工業開発の現状と将来動向、また原子力発電所の有無などにより各県それぞれ特徴があると思われるが、それぞれの個性を生かしながら相協調しつつ前向きに諸問題と取りくんでいる。ここに最近の動きと将来を展望したい。

1. 支部ブロック会議の状況

(1) 55年度

日時：5月14日

場所：愛媛県職員共済会館

議題と情報交換について

- ア. 部会（大気、水質）のあり方について
- イ. 公害研における技術指導に係る体制ならびに内容について（工業、保健所、市町村、メーカーなど、それぞれに対する具体的方針）
- ウ. 分析用機器の補助要望について（新しい品目、更新時の措置、補助ワクが残っている場合など）
- エ. 大気汚染緊急時における発令権者及び、報道機関への発表方法
- オ. 洗剤に関する調査研究について
- カ. 環境アセスメントに対する研究機関の考え方、体制について
- キ. 栄養塩類の分析について
- ク. そ の 他

(2) 56年度

日時：5月19日

場所：鳥取市吉方温泉久松閣

議題と情報交換について

- ア. 悪臭検査体制について
- イ. 新しい業務への取り組み方について
テナ解析業務と情報収集業務
- ウ. 国庫補助の対象機器の拡大

エ. 分析機器の補助要望

オ. 国立公害研修所の活用と要望

カ. 石炭への燃料転換に伴う対応策

キ. 小規模事業場負荷量削減対策

ク. そ の 他

今回は役員改選があり、支部長に徳島県が留任し、新理事に広島県の田中所長、香川県的美澤所長が新しく選任された。

2. 部会の状況

(1) 大気部会

55年10月23、24日の両日山口市湯田の翠山荘で開催、38名の出席をみた。

特別講演として下関気象台諸富技術課長の「大気汚染と気象」があった。

大気部会の今後の運営方針が協議され、情報交換は31件で、内訳は

発生源	6件	悪臭	5件
一般環境	8件	騒音振動	5件
環境監視	7件		

であった。

なお、工場見学として宇部興産(株)伊佐セメント工場の視察が催された。次回より今回の協議の結果をふまえ実施、運営される運びとなった。

(2) 水質部会

55年9月25日、26日に高知市鷹匠町鷹匠苑で開催された。

参加者は30人で、特別講演は高知大学農学部 畑 幸彦教授の「淡水赤潮」と題する講演が行われた。

研究発表は9県で15題あり、それぞれの県の特徴を生かした有意義なものであったが、水質ブロック会議は研究発表にとどまらず、技術的な内容についての情報交換、討論の場もほしいとの要望、意見があり、今後取り入れてゆくことになった。56年度は島根県で開催予定。

(以下 p. 20へ)

■支部だより■

(p. 32よりつづく)

(3) 精度管理検討ブロック会議

56年2月20日に山口市湯田の山泉荘で開催された。出席者は環境庁2名、委員3名、各県23名であった。本年度の調査のひ素、総クロム、窒素、りんについての検査結果の検討と質疑応答が行われたが、各県とも概して良好な成績であった。

3. その他の事項

以上が中・四国支部でもった会議内容であるが、冒頭に述べたようにこの支部は地理的特性が各県ともちがいが、特に瀬戸内海に面する中国側3県、四国側3県はいろいろ共通性があり、協同研究的な課題がもたれている。水質特に海域においては、瀬戸内海水質汚濁研究公書

研会議がもたれ、(これには近畿地方、九州の瀬戸内海関係県、市も加入している)。活発なデータ交換が行われている。また、本年よりは環境庁の肝入りで「瀬戸内海環境情報基本調査」として地域別に底質の各種分析が研究されることになっている。

大気関係では環境庁の主催で日本気象協会の協力をえて、関係各県で「瀬戸内地域光化学現地調査」が54、55、56年の3年けいぞくで航空機による調査、上層気象観測、海陸風との関係、地上汚染物質の滞留や濃度などが研究されている。

以上のとおりであるが、今後相協力して環境保全につとめたい。